

## 寅、虎、トラ、タイガーズ・・・寅さんが一番！

のんびりしたイメージのあった牛から激しい動きの虎へ。昨年の丑年は、のんびりどころか、政界の激変と社会と人心が揺れ動いた一年でした。やってきた寅年はどんな年になっていくのでしょうか。



以下は虎（寅）にまつわるいくつかのエピソードです。

分類学的には、ネコ科に属しながら、体の大きさとその獐猛さからまったく別次元の動物のようにさえ思えます。シベリアトラ、アモイトラ、インドシナトラ、ベンガルトラ、スマトラトラなど、どの虎も小動物を餌にしている。でも、同じ肉食動物の百獣の王・ライオンに比べ、人間の世界ではなぜかあまり人気のないのが実情ですね。

それでも、虎は強いものの象徴です。「虎視眈々」などは、襲う前に相手のスキを狙っている鋭いさま。「虎の威を借る狐」などは、弱いあるいは実力もないのに力のある誰かをタテに強ぶることで、きっと引用された虎にとっても迷惑でしょう。「張子の虎」で虚勢を張るのも困りものです。一方で、「虎穴に入らずんば虎子を得ず」なんて勇気を鼓舞するのに使われる諺もあります。

日露戦争の時代を映した「坂の上の雲」が好評を博しています。その後、日本は軍国化の道を進み、結果的に太平洋戦争に突入しました。真珠湾攻撃の暗号「トラ　トラ　トラ」なんて時代には絶対に戻してはなりません。

仏教には「石虎將軍」との説話があります。母親を虎に殺された将軍が森を探していて“虎”を見つけた。報復の思いを込め全魂で放った矢は見事“虎”の体に命中しました。ところが、近寄ってみると、それは虎の形をした石だったのです。矢は石の奥深くまで突き刺さっていました。ためしに再び石に矢を放ってみました。でも、今度は表面にさえ刺さりませんでした。

「石に矢のたつ是れ又父のかたきと思ひし至信の故なり、何に況や仏法においてをや」（日蓮大聖人御書）。一念の大切さを説いた故事です。

さて、スポーツの世界では阪神タイガーズ。アメリカから帰国した城島選手が加わってどんな寅年になるのでしょうか。ゴルフではタイガー・ウッズ、と書きかけたところで一連のスキャンダルが世界を駆け回りました。上手さに溺れて人間としてのコースを誤り、人生のバンカーや池にはまってしまった。いろんなことを教えてくれているような気がします。

そんな高い次元の世界には手の届かない私たちには「フーテンの寅さん」でしょう。旅先で出会ったマドンナに惚れつつも、毎度のことながら“いい人”どまりで終わってしまう。それでも、日本の美しい風景を背景に繰り広げられる人情話は、殺伐とした社会と人々の心を和ませてくれます。

「東京のドン・キホーテ」も、腹巻こそしていませんが、槍の代わりにカメラを手に、ロシナンテの代わりに飛行機にまたがって、今年もまた“見果てぬ夢”を追って放浪の旅を続けていく所存ではあります。

